

12月10日からの約1週間の期末試験期間が終わり、1カ月間の冬季休暇に入りました。現在は、クリスマス前ということで、至るところで美しいクリスマスイルミネーションを観ることができます。天候は相変わらず氷点下の気温が続き、雪が舞う日も多いです。

今回は、12月23日現在までに経験したことを報告致します。



授業と大学生活

秋学期(Fall semester)に履修した5科目中3科目は期末試験がありました。今回は、期末試験に関して報告させていただきます。

ESL 110 -English Pronunciation for Academic Purposes と ESL114 -Intro to Academic Writing の科目には、期末試験はありませんでした。しかし、ESL110 の科目では、インストラクターの部屋を訪問し、与えられた文章や単語を読み、それを録音するという課題がありました。与えられた文章や単語は、学期の初めに録音した時のものと同じでした。つまり、インストラクターが、授業を通して、学生の発音がどのくらい改善したかを判断します。終了後は、改善された点、まだ練習が必要な点についてアドバイスをしてくれました。

ESL114 の最後の課題は、リサーチペーパー6枚とそのプレゼンテーションでした。リサーチペーパーは個々に興味があるテーマを選択することができ、そのテーマに関する情報を本や新聞等から得ます。この授業で学んだ Academic writing の要素を満たしていること、文献が規定通りに記されていること、文法を正しく用いていること等が採点の基準になります。また、プレゼンテーションの採点はインストラクターと学生が行いました。

どちらの授業も大変魅力的で、価値のある授業だったと思います。

HIST 141 -Western Civilization to 1660 の期末試験は、朝8時から3時間に及ぶ試験でした。歴史上の起こった出来事を年代順に並び替えるという問題もありましたが、80%は記述式の問題でした。歴史の中で重要な人物や出来事の単語が与えられ、それについて時代背景やそれが歴史を通してなぜ重要なのかを記述する問題。過去に書かれた文章、例えばローマ憲法の文章が与えられ、それについての時代背景やそこから読み取れることを記述する問題。さらに短いエッセイを書く問題です。これに関しては、「力」、「性」などのような大きなテーマが与えられ、その単語と歴史がどのように関連しているかについて、自らの見解を主張する文章を書かなければいけませんでした。その見解を裏付ける例として、関連する出来事や人物についても述べる必要がありました。この試験に持ち込みは禁止されていたので、苦戦しましたが、所要時間を全て使い上げること

ができました。この授業を通して、歴史は覚えるだけでなく、そこから得られることが最も重要であることに気がつきました。

この科目の採点方法について興味深い点がありました。学生は、この科目の中で3つのレポートを書かなければなりませんでした。実際にその中で点数の良かった2つが採点されるというものです。したがって、学生にとって負担はありますが、その反対にチャンスもあるということです。

EALC - 250 Intro to Japanese Culture の期末試験は、学期中に学んだ内容全てに関する問題でした。内容は、単語を穴埋めする問題、選択式問題、記述問題と3つのパターンに分かれています。選択式の問題は難しい単語が多い上に、「この著者によると・・・」という内容の問題が多くありました。つまり、この科目で推奨されたり、必須である本を読んでいないと解答できない問題が多くありました。記述式問題は、ディスカッションで話し合った内容を基に出題されました。この試験でも3時間の時間を費やしましたが、理解できない単語等があり苦戦しました。

この授業を通して、客観的に日本を見つめることができました。

MCB 100-Introductory Microbiology の期末試験も EALC250 と同様に、この学期に学んだ内容全てに関する問題でした。この試験にも3時間の時間が与えられていましたが、約1時間で解答することができました。それは、今まで受験した試験と同じ問題数（約1時間程度で終わる問題数）で、選択問題だったからです。また、問題内容も難しいものではありませんでした。この科目では、期末試験を含め4回の試験がありました。この中で点数が良い3つの試験が採点対象となります。したがって、期末試験前の3つの試験で良い点数だった学生は、期末試験を受験する必要がないということになります。しかし、期末試験当日には、多くの学生が受験していました。多くの学生がAの成績を取得したいからだと思います。

この科目は、金沢工業大学の「微生物工学」と似た科目でした。したがって、知識はあったものの、難しい単語に苦戦しました。この科目で学んだ専門単語を基に、春学期は私の専門である「分子生物学」の科目を多く履修しようと考えています。

イリノイ大学での1学期を終了しましたが、反省すべき点が多くあります。宿題ばかりに時間を費やし、きちんと予習や復習ができなかった点です。そのため、試験前になって詰め込むような勉強をしたり、ディスカッションで意見を述べることができなかつたりしました。また、どの科目もきちんと取り組んだつもりですが、やはり英語能力が足りないことが大きな問題です。特に、文章を書くことが多かったこの学期で、文法が未熟だと気づきました。それを学ぶために、きちんと自学自習を設ける時間も必要だと反省しました。他にもまだまだ反省すべき点は多くあります。これらのことを春学期に活かしたいと思います。

以上が授業に関する報告です。

Christmas Day



冒頭でも示しましたように、現在は至るところでクリスマスのイルミネーションを観ることができますし、友人と会えばクリスマス話題になります。先月ボストン、ニューヨーク、シカゴへ訪れた時にも、巨大なクリスマスツリーを見ることができました。また、シカゴの高級住宅街を通った時、眩いばかりの木々に囲まれた家や庭にある巨大なサンタクロースや雪だるまと見ることができました。

先日は、“International Connection”クラブでクリスマスパーティがありました。クラブのリーダーの家へ行き、クリスマスの由来について話を聴きました。由来の話も大変興味深いものでしたが、私達が装飾を楽しんでいるクリスマスツリー、赤と白の縞模様のJの形をしたスティック、クリスマスカラーである赤色など、全てがイエス・キリストのシンボルであるということに驚きました。多くのアメリカ人はそのことを知らず、現在は家族と共にゆっくり過ごす日と考えている人が多いようです。その話を聴いて、日本の休日についても由来等を知らないことに気がつきました。「日本学」の授業を履修していた時にも思いましたが、自分の国もことをもっときちんと学び、様々な視点で見つめ直したいです。

クリスマスの由来について話を聴いた後は、皆で食事をしました。お邪魔したリーダーの家の中には、立派な暖炉がありました。その暖炉の火で竹串に刺したマッシュマロを焙り、それをクッキーに挟むというアメリカならではのデザートをいただきました。また、クッキーなどのスイーツで家を作ったりもしました。大変楽しく、充実した時間を過ごすことができました。私は、交換留学生と交流を深めるS.G.E.サークルに所属していますが、このようにただ一緒に楽しむだけでなく、きちんと文化を伝えるようなイベントを考案してみたいと感じました。

いよいよ、明後日のクリスマスからは、ニューヨーク、そしてワシントン D.C.へ向けて出発します。次回は、春学期の履修科目や冬季休暇について報告させていただきます。

読んでいただきありがとうございました。これで12月の報告とさせていただきます。